

巻頭言

ワクワクする学会活動

MHI ソリューションテクノロジーズ株式会社 安武 昭典



二度目の巻頭言執筆となりました。8年前は「学会と企業」として法人会員、正会員の獲得に向けた提言。今回は学会への叱咤激励をとの御依頼でした。

私の学会との出会いは学生時代の触媒学会の触媒討論会、日本化学会春の年会で発表、国際触媒会議の会場担当で先生方はじめ、仲間とワイワイガヤガヤの楽しい思い出からです。本吸着学会は、就職後、吸着関連の開発研究に携わるようになり、先輩方の勧めもあって入会しました。発表のために入会が必須なのが学会入会動機の一つに挙げられるかもしれません。しかし、学会活動は発表・聴講だけの場ではなく、人との出会いが生まれる場のように感じました。特に、吸着学会は規模としても丁度いいのか、どの会合・発表会に参加しても温か味、親近感を味わえるように思っています。これは、国内組織のみでなく、国際組織でも同様なようで、私の参加はFOAの場とAICHeの吸着工学セッションではありましたが、欧米の先生方も親しみを持って声掛け、接して頂きました。また、企業の研究者として、なかなか大学・国研の先生方と同レベルのお話は難しいものがありますが、同じフロアで丁寧な対応を頂けて、居心地の良い場所でもあります。

ところで、今の若手の研究者の方はどのような学会活動ができていますでしょうか。特に企業の研究者の学会参加の状況が気になるところです。私が所属するどの学会でも、正会員の減少はもとより、法人会員の減少が話題となっています。学会の性質にもよりますが、正会員でなくとも法人会員であれば、発表会・セミナーへの参加、登壇ができる学会もまだ多く、若手研究者にも場を提供できるようになっていると思われる。しかし、会社が法人会員を退会するとその場が失われて、自分の考えについて、意見を聴取する機会を失っているようにも思えます。学会側は法人会員に対して、セミナーなどへの企業参加を促す各種方策をとって、若手技術者・研究者の活動の活性化を図っているようですが。

我々企業に属する会員が、若手技術者に学会参加を促進させるキーワードとして、新鮮な情報の入手の場、自分の考えを丁寧に聞いてもらい適切なアドバイスがもらえる場、技術者・研究者の輪を広げるチャンスと

言うところです。しかし、いずこの企業も経費節減で退会、出張費の節減で参加のチャンスが減少、また情報セキュリティの面で発表の制限が壁となり、従来より更に厳しい時代となっているのも現実です。

一方、学会関係者も、法人会員の関心を得る方策を色々と検討されており、一定のインセンティブを与えたり、企業関係者が参加しやすい項目を提示したりされています。若手研究者は、情報に飢えていると思いますが、現在のインターネット社会では、情報検索も容易になって、学会に参加せずとも入手できる情報が多くなっています。しかし、やはり顔を合せての情報交換の場でないと思えないものもまだまだ多いはず。学生時代に戻ったワイワイガヤガヤがいいのか、海外の研究者や異業種の研究者が集う異業種交流会のようなものもいいのか。類似の学会、または少し毛色の違う学会との交流のようなお試しの会も必要かもしれません。

現在、吸着学会が進めている若手研究者向けのセミナー、夏の学校などは参加しやすい環境と思いますので、企業からの参加も促進させて、若手技術者の活性化の場になるよう、我々企業側会員も仕組みを考えていきたいと思っています。

20~30年前に自分が経験させてもらったワクワクした環境を、今の若手に如何に還元できるか、我々成熟時代も、気持ちも頭もリフレッシュして提案していきたいと思っています。今後ますます、吸着学会が発展できますように、私も微力ながら注力していきたいと思っています。

氏名 安武 昭典
所属 MHI ソリューションテクノロジーズ株式会社
略歴 1981年3月 九州大学大学院総合理工学研究科修了
同年 4月 三菱重工業株式会社入社
2002年4月 同社長崎研究所化学研究室長
2012年4月 長菱エンジニアリング株式会社移籍
2015年6月 同社取締役就任
2016年1月 合併により現社名に変更 現在に至る